Church of the 26 Japanese Martyrs

通巻 No.239 2023年7月30日

教会報 ほんじょ

〒130-0011 東京都墨田区石原 4-37-2 TEL : 03-3623-6753 FAX : 03-5610-1732
http://www.catholic-honjyo-church.org

INDEX

□「暑中見舞い」
主任司祭 パウロ 豊島 治
□「司牧評議会からのお知らせ」
□ その他

「暑中見舞い」

主任司祭 パウロ 豊島 治

暑い日が続いています。いかがお過ごしでしょうか。七月二十六日には気温三十九度台の最高気温を関東地方で観測し、熱中症での救急搬送も三十九人（東京都同三時現在）と報道されました。こんな状況ですから、この時期外出をできるだけ慎重にされることをお勧めします。

また、すでに報道されている通り七月十五日から十七日にかけて秋田県内では記録的豪雨となり、甚大な被害が発生しました。秋田県内の信徒の家やカトリックミッションスクールでも床上浸水の被害をうけたとのことです。昔の家屋の浸水対策といえば、大雨の前に近所総出で荷物と畳を上げて、浸水後に床板を掃除するという作業で過ごしていましたが、現代の建築構造では原状回復の作業はそう単純ではないようです。

成井新潟司教は司教総会報告のビデオメッセージで全国にお祈りの依頼をされています。

温度の高い空気と低い空気がぶつかって積乱雲が発生、もしくは線状降水帯が発生し大雨を降らすというメカニズム。過去の気温の記録をみますと気温三十五度を超える日は昭和四十年代の十年間で一日だけでしたが、今年（昭和九十八年）はすでに八日を記録しています。だから頻発するのでしょう。

またこの影響は他にもあります。食生活でいえば夏野菜が高騰してしまうでしょうし、季節の食物も収穫時期、量もかわってしまいます。そうしたら、限りある予算でやりくりしなければならない人は必要な糧を減らさなければなりません。

気候変動の国際会議ではいつも紛糾し具体的な対策ができないという報道にふれると、一人ひとりはエゴイスト（利己主義者）であると認識します。皆それぞれ自分さえよければそれでいい、それは認めたいものです。たとえキリスト者であっても、きれいごとを並べますが本音は「自分がかわいい」のです。確かに環境破壊を食い止めようという理想に賛成ではあっても、今のやり方をいきなり全部かえることはできません。現実、私はこの原稿作成も電気をつけて記しています。

教皇フランシスコの新しさは十三世紀に活躍したアシジの聖フランシスコのようにキリストにならう生き方を徹底的に追い求めているという点があります。アシジの聖フランシスコはあらゆるものに対して親しく接しました。とくに小さき者たちに対する底抜けの愛情表現は秀逸です。生きていることをよろこびつつ、感謝と賛美の歌を口ずさむことそのものが純粋な祈りとなっているからです。草花も、小鳥も、魚も、市井の人びとも、アシジの聖フランシスコのおおらかで朗らかな気楽さに励まされて生きる希望を新たにしました。開放的にあらゆるものと交流しながら地球全体を一つの家、それも憩いの家として大切にするというのが、教皇フランシスコの指導方針であり、それは回勅『ラウダート・シ』で結ばれています。

南米の神学者が一九九〇年代に論文を発表しています。格差社会の構造の底辺であえいでいる人々の叫びと環境破壊にさらされて軋んでいる地球の叫びとを結びつけて「いのちそのものの叫び」として統合して理解しているものです。教皇フランシスコは二〇一五年五月二十四日『ラウダート・シ　ともに暮らす家を大切に』を刊行しました。この回勅では特定の人権思想の立場ではなく信仰の次元で物事を眺めて人々のこころを導く司牧者としてふるまっています。ですからこの回勅において「いのちを守るのは人間ではなく、神である」という視点を強調しているのです。神さまのいつくしみによって人間や地球環境がつつみこまれて「いのち」そのものが安定するという信仰の視点です。二〇一九年に、教皇フランシスコが訪日した際「すべてのいのちを守るため」という目標を掲げました。その真意は、神さまのいつくしみによってあらゆるいのちが守られていることを信仰視点で見直して回心せよということではないかと思うのです。

九月一日と三日は「被造物を大切にする世界祈願日」、そして十月四日まで「すべてのいのちを守るための月間」です。意識していきましょう。